



FIRST LANGUAGE JAPANESE

0507/02

Paper 2 Reading and Directed Writing

May/June 2010

2 hours 15 minutes

Candidates answer on the enclosed Answer Booklet.

No Additional Materials are required.

READ THESE INSTRUCTIONS FIRST

Write your Centre number, candidate number and name on all the work you hand in.

Write in dark blue or black pen.

Do not use staples, paper clips, highlighters, glue or correction fluid.

Answer **all** questions.

At the end of the examination, fasten all your work securely together.

The number of marks is given in brackets [] at the end of each question or part question.



受験生への諸注意

提出物全て（解答用紙、その他）にセンター番号・受験番号・氏名を記入しなさい。

必ず黒または濃い青色のペンを使用すること。

ホッチキス（ステープラー）やペーパークリップ、蛍光ペン、のり、および修正ペンなどの使用は禁止。

すべての問題に答えなさい。

試験終了時には全ての提出物をまとめ、必要によっては配布されたひもなどでくくりなさい。

配点は各設問の最後にある[]内に示されています。

This document consists of 7 printed pages, 1 blank page and 1 inserted Answer Booklet.



パート1

次の【A】と【B】は「対人関係」に関する問題の改善方法について異なる視点から述べたものです。
二つの文章を読んで、後の問1と問2に答えなさい。

【A】： 「わたし」と「あなた」という言葉は、話し手を「自分」として、他の人間との区別を示す主観的な表現です。言語によっては、「わたし」や「あなた」に相当する表現がいろいろあり、「自分と他人」を区別するだけでなく、話し手の視点に立って社会的、心理的な対人関係を示したり、話し手の周囲に対する主観的な態度なども表したりします。

「わたし」という人間の周囲に、いつも「あなた」がいます。日本語で「あなた」にあたる呼びかけ方には、「おまえ」とか「君」とか、いろいろな語があり、会話にどれが使われるかによって、話し手たちの関係が、ある程度わかります。日本で、「わたし」と「あなた」、「おれ」と「おまえ」という関係で思い浮かぶのは、竹馬の友、あるいは「一つ釜の飯を食った」などと表現されるような関係です。お互いが運命的に一緒に結び付けられているという感じが強くなります。この場合は、わたしという一人の人間が、あなたという一人の人間と向き合って関係を作っていくというのではなく、二人で一つになっているような感じがします。

「われわれは一緒だ」という感じで行動するとき、そこには良い面も悪い面も出てくる気がします。一致団結して何かを行うとき、うまくいくときはいいのですが、それが失敗したり、よくないことになっていったりすると、下手をすると「われわれ」がやったということで、「わたし」という個人の責任があいまいになってきます。みなが行うのだからということで、安易に行動してしまいがちになります。

人間というものは不思議なもので、「人は、一人一人それぞれの人が個性を持っている」ことを一方では知っていながら、一緒になって行動していると安心してしまって、他の人も自分と全く同じように考えているのだと思いきなでしまいます。つまり、「あなた」という人間の姿があいまいになってしまうのです。そうしているうちに、ふと相手が自分と異なる考えをしていることがわかることがあります。すると、「あの人は変わってしまった。」とか、「裏切られた。」などということになります。もともと、自分の勝手な思いこみが原因なのに、なんだか相手がすべて悪いように思うのです。

そんなとき、何もかも他人のせいにして非難したりせずに、自分が思いこみをしていなかったかとふり返ってみる。そして、自分の思いこみに気づいたときに、なぜ自分はそのような思いこみをしてしまったのかを反省してみる。そうすると、案外、自分のことがわかってきます。相手の姿に照らし出されて、自分の姿がみえてくるのです。そして、自分と向き合っている「あなた」によって、「わたし」も、だんだんと磨かれ、成長させられていくのがわかるのです。

【B】： 引きこもりや「キレる若者」など対人関係の不適応が問題化している。そこで文部科学省は来年度から、人間の社会行動やコミュニケーションに関係する脳の機能や構造を特定する研究に乗り出す方針を固めた。脳のある部位の変化や個人的特徴が、行動などにどのような影響を与えるかを示す指標を作り、問題行動や社会性障害の予防や治療につなげることを目指す。

文科省や専門家によると、脳の生物学的な特徴と社会行動との関係は、動物では比較的解明が進んでいる。マウスでは、ある種の脳内物質を欠くと自閉的行動を示したり、攻撃性が高まることが分かってきたという。

人間については、脳の計測の難しさなどから心理学的な手法での研究が主だった。今回、文科省は動物での知見を網羅的に結集し、計測技術の開発も進め、人間の社会性を生み出す脳内メカニズムの解明を目指す。文科省がテーマを設定し公募で研究者を選ぶ。さらに、不眠症や摂食障害、うつ病の増加を踏まえ、ストレス耐性や睡眠リズムをつかさどる脳幹研究も強化する。

このため、今年度から5年計画で始めた脳科学研究戦略推進プログラムを拡充し、今年度の予算17億円から倍以上の重点投資を計画している。

文科省ライフサイエンス課は「脳科学だけですべての問題に答えることはできないが、問題行動や社会性障害の生物学的なリスク要因がある程度明らかになれば、予防や治療に結びつく可能性がある」と期待する。

東北大で「脳神経科学を社会に還元する教育研究拠点」のリーダーを務める大隅典子教授は「早い段階でリスクが分かれば、育児や教育でケアできる可能性がある。こうした指標が差別につながらないよう、経験や環境によって脳が生物学的に変化することなども社会に説明しながら研究を進める必要がある」と指摘する。

問1 【A】のエッセイと【B】の新聞記事を読み、対人関係に関する問題を改善する方法について【A】と【B】、それぞれのアプローチを比較して、異なる点、共通する点などを400字程度で要約しなさい。その際、個人的な意見は述べず、客観的にまとめなさい。 [20]

問2 【A】と【B】を読んで、学校における良い対人関係を築くための提案を考えなさい。そして、校内放送のスピーチのため、自分の経験や実例などを添えて説得力のある文を300字程度で簡潔に書きなさい。 [20]

問 次の8-12の空欄()に入れるのもっとも適するものを、下のア-エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 8 来週引越しの予定なのですが、()新居がまだ工事中なんです。
 ア 実は イ まず
 ウ 要するに エ とにかく [1]
- 9 思いがけない光景に出くわし、彼女は驚きのあまり、()になった。
 ア 苛立ち イ 棒立ち
 ウ 生い立ち エ 出で立ち [1]
- 10 祖母は炬燵こたつに()おせんべいを食べながら、テレビを見ている。
 ア 座って イ 乗って
 ウ あたって エ ついて [1]
- 11 彼は新人の彫刻家だが、昨年、()に富んだ作品で日本芸術協会大賞を取った。
 ア 適材適所 イ 創意工夫
 ウ 誇大妄想 エ 常套手段 [1]
- 12 あの人は女性に対して()が浮くようなお世辞を言うので知られている。
 ア 齒 イ 踵かかと
 ウ 目 エ 手 [1]

問 次の 13－17 の下線で示された言葉について、それぞれの類義語を下の各文章にあてはまる文法の形で書きなさい。(例:安全－無事)

- 13 金メダルを獲得した選手が笑顔でインタビューにこたえた。
- 14 委員会は、激しい議論の末、先月出された改革案を撤回することにした。
- 15 空港建設の為、地域の住民達は、強制的に立ち退くよう命ぜられた。
- 16 真夏の海で遊ぶとき、紫外線に素肌をさらすのは極力避けるようにしましょう。
- 17 彼女は生涯を貧困や病気に苦しむ人々への愛と奉仕に捧げた。

[5]

問 次の 18－22 の下線の単語の品詞名を下から選んで記号で答えなさい。

18 また、8 月がやってき 19 た。田舎では、^{いなか} 蝉の鳴き声 ^{せみ} 20 を聞きながら、風の 21 涼しい縁側で^{すいか} 西瓜を 22 食べる。

ア	連体詞
イ	接続詞
ウ	形容詞
エ	動詞
オ	副詞
カ	名詞
キ	代名詞
ク	助動詞
ケ	助詞
コ	形容動詞

[5]

BLANK PAGE

Copyright Acknowledgements:

Part 1A © Taku Nishikawa; Taijin-kankei: Kureru kōzō wo Kenkyū e; <http://mainichi.jp/select/science/news/20080819k0000m040147000c.html>;
Mainichi – Shinbun News; 19 August 2008.

Part 1B © H Kawai; *Watashi no mawari ni wa Itsumo anata ga iru*; Mitsumura Toshō; 5 February 1994.

Permission to reproduce items where third-party owned material protected by copyright is included has been sought and cleared where possible. Every reasonable effort has been made by the publisher (UCLES) to trace copyright holders, but if any items requiring clearance have unwittingly been included, the publisher will be pleased to make amends at the earliest possible opportunity.

University of Cambridge International Examinations is part of the Cambridge Assessment Group. Cambridge Assessment is the brand name of University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES), which is itself a department of the University of Cambridge.